

ほほえみ

新年挨拶

コロナ禍を超えて:行動変容の維持

病院長 福井 次矢

がん 特集⁵⁴

がん薬物療法認定薬剤師
としての当院での活動

薬剤部 大野 卓也

最新医療を知ろう

「ウチの子、食物アレルギーかも？」
と疑ったら～治療、管理の最新情報～

小児科 科長・助教 赤松 信子

● 職場探訪 -皮膚科のご紹介-

● トピックス

- ・ 最新鋭のFPD(フラットパネルディテクタ)システムを導入しました
- ・ 令和4年1月4日より自動精算機が導入されます
- ・ 第51回日本腎臓学会東部学術大会「優秀演題賞」受賞
- ・ 茨城がんフォーラム2021において参療特別賞を受賞しました

● 医療連携紹介

● 市民公開講座のご案内

東京医科大学茨城医療センター

<http://ksm.tokyo-med.ac.jp/>

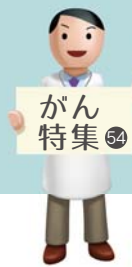
発行日：2022年1月1日

発行人：病院長 福井 次矢

発行所：東京医科大学茨城医療センター

〒300-0395 茨城県稲敷郡阿見町中央3-20-1 TEL029-887-1161 (代)





3) 患者指導

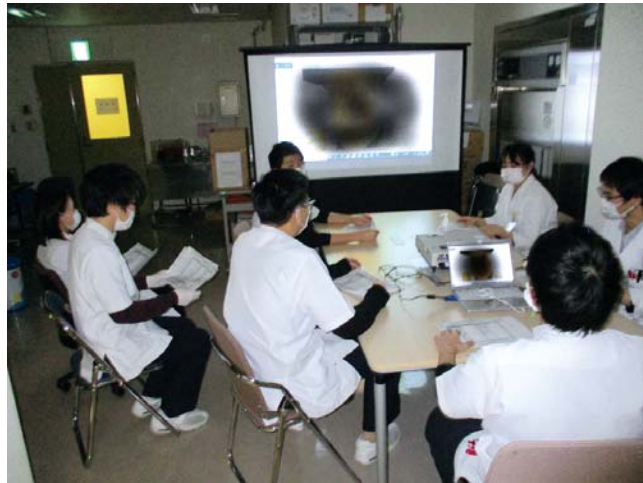
治療スケジュール、経口抗がん薬の服用方法、起こりうる副作用、その予防や対策、支持療法薬の服用方法、稀にしか起こらないが重篤な副作用の初期症状などの正確な情報を患者に伝えて理解してもらい、正しく治療が行えるサポートをします。

【がん患者管理指導料ハによる薬剤師の外来介入への推進】

国の2014年度の診療報酬改定より、薬剤師にとって初めての外来での薬学的な関与による診療報酬上の加算とされる‘がん患者指導管理料3’が新設されました(名称変更され現在はがん患者指導管理料ハ)。その具体的な内容を以下に示します。

①薬剤の効能・効果、服用方法、投与計画、副作用の種類とその対策、日常生活での注意点、副作用に対応する薬剤や医療用麻薬などの使い方、他の薬を服用している場合は薬物相

画像) 週1回の薬剤部内カンファレンスの様子



互作用などについて文書による説明。

②抗がん薬による副作用評価を行い、当該患者の診療を担当する医師に対して、指導内容、過去の治療歴に関する患者情報、抗がん薬の副作用の有無、服薬状況、患者の不安の有無などについて情報提供するとともに、必要に応じて、副作用に対応する薬剤、医療用麻薬などまたは抗がん薬の処方に関する提案。

【当院での通院患者介入の実際】

外来通院治療患者への介入は2020年3月より薬剤師1名により行われおり、主に通院治療センター担当看護師からの依頼がある患者に介入しています。ここで、外来通院治療の介入初期に経験した印象深い一例を紹介します。

78歳男性、大腸がん(肝転移)にてIRIS+Pmab療法(イリノテカン エスワン パニツムマブという抗がん剤の3剤併用治療)を実施されていたが毎回、

イリノテカンとパニツムマブ投与翌日から3日間悪心に悩まれていたため、外来看護師より薬剤師介入を依頼されました。

初回介入時の患者主訴は

①継続期間は点滴投与後翌日

より3日間程だが対象期間を過ぎると症状はなくなる、②S-1内服中には同様の症状は見られない、③胃痛なし、④食事は当該期間中バナナ1本/日程度、⑤下痢や嘔吐はない、⑥吐き気止めは貰ったことない。

上記内容と採血結果より抗がん剤による遅発性悪心(投与数日後にその抗がん剤によって生じるむかつき)の可能性を考え、主治医に対して予防のためデキサメタゾン(嘔気軽減目的で使われるステロイド剤だが、当初はその副作用回避目的で通常より減量されていた)を抗がん剤投与の翌日から4日間の使用と、症状が出現した際の対処に頓用の嘔気止め飲み薬を提案したところ処方追加された。翌通院治療日での介入時に当該期間における悪心の完全消失があったと患者から涙ながらに感謝されました。この件にて、外来での薬剤師介入が患者に対し微力ながら役に立てたと感じる事ができました。無論、薬剤師1人の対応では限界があるため最近では、副作用改善に乏しい患者への対応として、薬剤部内カンファレンスで処方提案や次回介入時の対応を議論したりすることがあります。

がん薬物治療による苦痛軽減を目指し、患者が出来る限り長期的に安心して治療していただけるようこれからも精進していけたらと思います。

最新医療を知ろう



「うちの子、食物アレルギーかも？」と疑ったら～治療、管理の最新情報～

小児科 科長・助教
医学博士
日本小児科学会専門医
日本アレルギー学会専門医
日本小児感染症学会認定医
あかまつ のぶこ
赤松 信子



■食物アレルギーとは

食物アレルギーとは、「食物を摂取した後、体への不利益な反応がおこること」です。食中毒やアレルギーに似た症状を引き起こす可能性のあるヒスタミンなどを含む食品(サバ、トマトなど)に対する反応は除きます。採血検査は診断の補助にはなりますが、採血だけでは診断できません。正しい診断には「原因と考えられる食物を食べて症状がでるかどうかな」の確認が必要です。食物経口負荷試験(oral food challenge, OFC)は食物アレルギーの確定診断、安全に摂取できる量の決定や日常摂取量を食べられるようになった(耐性を獲得した、といいます)のかの確認を目的に行われます。

食物アレルギーの基本的な治療は「必要最低限の原因食物の除去」であり、OFCを定期的実施することで、「どれだけ食べることができるか」を確認し、自宅で摂取可能な量を摂取し続けることで、食べられるようになること(耐性化といいます)を目指します。最近では、乳児期からOFCを実施し、できるだけ早期に完全除去を回避することを目指すようになってきています。アナフィラキシーの既往があるリスクの高い児でも、総負荷量

を少量から段階的にOFCを行うことで、完全除去になる児を減らすことができます。少量でも原因食物を摂取できれば、耐性化を促進させ、微量混入によるアナフィラキシーのリスクを軽減する可能性も示唆されています。自宅での摂取状況や症状が出現した時の症状などを伺い、情報共有をすることが、適切な管理と治療に繋がります。

■食物アレルギーの種類

新規発症の原因食物は、1歳未満は鶏卵、牛乳、小麦がほとんどですが、それ以降は各年代で異なります(表1)。1歳を超えると魚卵が第2位に、幼児期になるとクルミ、カシューナッツなどの

木の実類アレルギーの増加が目立ちます。

最近のトピックスとして、食物以外の抗原や、食物成分を含む生活用品からアレルギーを発症する場合も報告されています。例えば、マダニに噛まれたことが原因で、牛肉や豚肉を摂取すると症状が出現するタイプ(α -Galアレルギー)、クラゲに噛まれたことで納豆を食べると症状が出現するタイプ(PGAアレルギー)などがあります。また、清涼飲料水やゼリー、グミなどの菓子類摂取後に食物アレルギーが発症した場合に、エリスリトール(メロン、ブドウやナシなどの果実や醤油・味噌・清酒などの発酵食品に含まれている

表1 新規発症の原因食物

	0歳 (1356)	1,2歳 (676)	3~6歳 (369)	7~17歳 (246)	≥18歳 (117)
1位	鶏卵 55.6%	鶏卵 34.5%	木の実類 32.5%	果物類 21.5%	甲殻類 17.1%
2位	牛乳 27.3%	魚卵類 14.5%	魚卵類 14.9%	甲殻類 15.9%	小麦 16.2%
3位	小麦 12.2%	木の実類 13.8%	落花生 12.7%	木の実類 14.6%	魚類 14.5%
4位	—	牛乳 8.7%	果物類 9.8%	小麦 8.9%	果物類 12.8%
5位	—	果物類 6.7%	鶏卵 6.0%	鶏卵 5.3%	大豆 9.4%

各年齢ごとに5%以上を占めるものを上位5位表記
(今井孝成、他。アレルギー2020; 69: 701-5より転載)



『うちの子、食物アレルギーかも?』と疑ったら

～治療、管理の最新情報～

天然の糖アルコール)が原因になっていることも報告されています。

■アナフィラキシーがおきたら

食物アレルギーのお子様はどんなに注意していたとしても誤食による症状誘発のリスクがあります。外出先ではさらにリスクが上がります。アナフィラキシーを発症した時は、迅速な対応が求められます。アナフィラキシー治療の第一選択薬はアドレナリン筋肉注射です。医療機関外での対応ではアドレナリン自己注射薬(エピペン®)の使用が推奨されています。しかし、実際アナフィラキシーの現場での投与は躊躇するケースが多く、継続的な練習が必要です。エピペン®を投与したらすぐに救急車(119)をよび医療機関を受診してください。なお、エピペン®は、アナフィラキシーの既往があったり、今後アナフィラキシーを起こす危険性が高い患者さんに対し、登録医によって処方されます。また、患者さん本人がエピペン®を注射できない場合には、保護者または教職員や保育士が代わりに注射をしてください。人命救助の観点から、やむを得ない場合での使用は医師法違反に当たらず、投与しても責任は問われません。

■その他

スマートフォン等の普及により、食物アレルギーやアナフィラキシー患者さんのためのアプリも開発されています。例えば「マイエピ(VIATRISTM)」では食物アレルギーに関する様々な情報だけでなく、日々のアレルギーの記録ができるノート機能や、アナフィラキシー発症時にエピペン®使用の音声サポート機能が付いています。その他、アレルギー食物を登録し対象商品のバーコードをスマートフォンで読み込むことで、その商品に除去しているアレルゲンが含まれているかどうか分かるもの、アレルギー食物を登録すると翻訳機能が付いており、海外

での食事や買い物の際にそれを提示することで、店員に速やかに伝えられるアプリなどもあります。このように、アプリを活用することでさらに自己管理がしやすくなります。

■まとめ

食物アレルギーのお子様は増加しています。食物アレルギー管理の原則は「正しい診断に基づいた必要最小限の原因食物の除去」です。正しい知識と判断で治療を進めていくことが大切です。少しでもご不安がありましたらいつでもご相談ください。

参考文献:
海老澤元宏、伊藤浩明、藤澤隆夫監修
食物アレルギー診療ガイドライン2021



*佐藤さくら先生(国立病院機構相模原病院臨床研究センター アレルギー性疾患研究部 食物アレルギー研究室長)より掲載許可をいただいています。

職場探訪



皮膚科 のご紹介

茨城県南・鹿行地域の皮膚科基幹施設として

茨城医療センターが立地する阿見町は茨城県南地域に属し、茨城県の中でも医療施設が比較的充実している地域です。しかし、茨城医療センターから東方面は、鹿行(鹿島・行方)と呼ばれる広大な地域で、当院から太平洋岸に至るまで皮膚疾患で入院できる施設がありません。従って、当科は、自らが立地する県南地域は勿論、とりわけ鹿行地域で入院を必要とする難治性・重症皮膚疾患患者の受け入れ先としての役割を求められています。

当科は常勤医5名体制で、茨城県内の皮膚科としては比較的充実したマンパワーを有しており、県南・鹿行地域の患者さんにハイレベルの皮膚科医療を提供すべく日々奮闘しています。全身型 Narrow band

UVB 照射装置、エキシマライト照射装置 VTRAC や Q スイッチ・アレクサンドライト・レーザー照射装置、ダイレーザー照射装置など設備面でも充実しています。また、当科は令和2年4月より、茨城県で筑波大学に続き二カ所目の日本専門医機構皮膚科専門医研修基幹施設に指定されました。指定以降、早速2名の専攻医が当科に入局し、専門医を目指して研鑽しています。これからも当科は茨城県南・鹿行地域の皮膚科医療・教育基幹施設としての役割を果たしていく所存です。

(皮膚科 科長 川内 康弘)



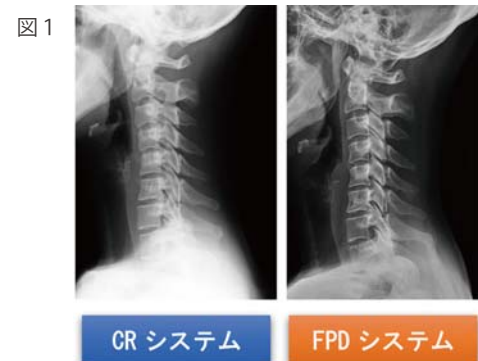
最新鋭のFPD(フラットパネル ディテクタ)システムを導入しました

この度令和3年度9月、当病院放射線部の一般撮影室にコニカミノルタジャパン社製FPDシステム AeroDR Fineを導入いたしました。

X線一般撮影(レントゲン)はフィルムからCR(コンピューテッド・ラジオグラフィ)と進化し続け、画質の向上や放射線被ばくの低減が図られてきました。この度更なる進化となる、FPDシステムではその性能と最新の画像処理技術により、従来のCRシステムと比較して以下の様なメリットがあります。

メリット1:検査時間・待ち時間の短縮

迅速にX線画像を提供することが可能です。画像処理速度が高速化されたことにより、撮影後瞬時に画像の確認が可能となりました。また、作業効率もアップされました。従来のCRシステムでは画像確認までの工程も多く、複数枚のカセットが必要でしたが、FPDシステムでは、1枚のパネルだけで連続で撮影ができるため、撮影時間が20%程度短縮されました。



メリット2:被ばくの低減

約50%程度の放射線被ばくを低減することが可能です。

照射されたX線を効率よく検出できることにより、CRに比べて約半分のX線照射量でも高画質の画像を得ることができま

メリット3:高感度で高画質な画像

高画質で高精細なX線画像を提供することが可能です。

画像処理技術が向上し、各構造物を分離よく表現することができます。例えば、頸椎側面画像において第7頸椎は肩と重なりで白く見えにくくなっていましたが、コントラストが良くなり椎体が見えるようになりました(図1)。

今回、一般撮影部門では、病棟及びオペ室でのポータブル撮影も同システムが導入されました。タブレット型PCを使用して撮影するため、リアルタイムで画像を確認することができ、以前より早く画像の提供ができることに好評を得ています。

これらのシステムを活用して、患者さんが安心して、有意義な検査を受けていただけるよう、放射線部スタッフ一同さらなる努力を重ねて参ります。



第51回日本腎臓学会東部学術大会「優秀演題賞」受賞

令和3年9月25～26日に開催されました第51回日本腎臓学会東部学術大会において、当科所属の田中治先生が「PR3-ANCA陽性急速進行性糸球体腎炎に腎内多発動脈瘤と多発脳梗塞を認めた一例」の演題にて「優秀演題賞」を受賞いたしました。日本腎臓学会は約11,000人の会員から構成され、年1回の症例報告を主とする学術集会(東部学術大会)が開催されております。これは学内外の多くの諸先生方のご指導により得られたものでございますので、ここに御礼とご報告を申し上げますとともに、より一層のご指導の程をよろしくお願い申し上げます。

(腎臓内科 科長 平山浩一)

■受賞者コメント

この度は、輝かしい賞を頂戴し大変光栄に思っております。

私は今年の春、茨城医療センター腎臓内科に入

局し、様々な腎疾患を持つ患者さんを診療させて頂くようになりました。なかでも、血管炎に精通している諸先輩方にご指導頂き、ANCA関連血管炎による多発動脈瘤を免疫抑制療法による薬物療法にて治療しえたという、極めて貴重な症例を経験することができました。

上級医の先生方に心より御礼申し上げるとともに、これからも一人一人の患者様を注意深く診療しつつ、貴重な症例を経験・発表できるよう努力し、微力ながら医学の発展に貢献する事ができれば幸いです。

(腎臓内科 後期臨床研修医 田中治)



左が田中治先生



茨城がんフォーラム2021において参療特別賞を受賞しました

2021年10月24日開催の「茨城がんフォーラム2021」において、泌尿器科の黒田医師ならびに放射線科の菅原医師の指導のもと報告した「前立腺永久挿入密封小線源治療における医療安全の取り組み」で参療特別賞を賜りました(図1)。本賞は、会場にお越しいただいた県民の皆さまからの投票により、選出されたものです。

当院では、2021年1月に前立腺永久挿入密封小線源治療(以下、シード治療)を開始しました。シード治療は、前立腺に高線量の放射線を集中・限局させることにより、有害事象を抑制した治療が可能であり、患者さんの生活の質を維持しつつ、手術療法と同等の治療効果が期待できる優れた治療法です。また、当院が県内唯一の実施可能施設であり、遠方からの患者さんも多く治療しています。2021年12月現在、合計38件のシード治療を安全に施行しています。

今回報告した内容は、「診療放射線技師が担う医療安全の取り組み」についてです。その取り組みの一つに「線源個数や強度(以下、放射能)の検証」があります。シード治療は、前立腺に放射線を放出する複数個の線源を埋め込む治療であるため、使用する線源が意図した通りの正確な放射能を有しているかを確認することが、高精度な放射線治療を実施する上で、非常に重要となります。

実際に欧米だけでなく本国においても、放射能の無い線源が納入された事例の報告があり、目的に応じて様々な線量計を適切に使い分け、米国の学会レポートを参考に、すべての線源に対して、放射能の正確性を検証しています(図2)。

シード治療は、医師以外にも様々な職種が協働して治療を施行しており、チーム医療が非常に重要です。診療放射線技師は、「縁の下の方の力持ち」のような存在ですが、治療の過程で欠かせない存在です。今回の表彰は、これらの徹底した厳密な放射線管理のもと、安全性の高い治療を実現していることが高く評価されたと考えています。

今後も県民のみならず、全国の皆様に安全で高精度な放射線治療を提供するため、放射線を取り扱うプロフェッショナルとして高い意識を持ち、質の高い放射線治療を施行可能な体制を維持していきたいと思



図1 参療特別賞

図2 線量計による線源強度の確認

令和4年1月4日より自動精算機が導入されます

医事システム更新に伴い、サービス向上と新型コロナウイルス感染症予防のため、令和4年1月4日より自動精算機(全3台)が導入されることになりました。自動精算機の導入により、非対面でのお支払いが可能となり、待ち時間の短縮にも効果が見込まれます。また、各種クレジットカード・デビットカードにも対応しております。

何かご不明な点がございましたら、お気軽に近くの職員までお話しください。

【設置場所】

1階 外来ホール 3台

【利用時間】

平日 8:30～16:00

土曜日 8:30～12:00(第1・3・5のみ)

※休日、祝日はご利用できません



※「診察券」「クレジットカード(C/磁気)」「キャッシュカード」すべてが同じカード取出口のため、患者さまは迷うことなく操作できます。



医療連携紹介

当院との医療連携登録医療機関を紹介するコーナーです。
第63回目は、高野耳鼻咽喉科クリニック(牛久市)をご紹介します。

高野耳鼻咽喉科クリニック

耳鼻咽喉科

院長
たかの あやこ
高野 綾子

2002年開院し、10月で20周年を迎えます。
当院では、「待ち番くん」というシステムを使った予約システムを2004年から導入し、患者さんの待ち時間のストレスを軽減させるよう工夫しています。これが、コロナ禍で進化して、初診から予約することも可能になりました。開院当初からのモットーである「患者さんに寄り添う」医療をこれからも目指していきます。

東京医科大学茨城医療センターとは長いおつきあいで、安心して患者さんを紹介できる病院だと思っています。

これからもよろしくお願いします。

診療
時間

平日・土曜日 9:00～13:00
15:00～18:00
日曜日 9:00～13:00

休診日

木曜日・日曜日午後、祝日

牛久市南2-22-7 TEL 029-870-5311
FAX 029-873-1152



市民公開講座のご案内

今回は新型コロナ感染拡大防止の為、オンライン開催といたします

第80回

「うちの子、 食物アレルギーかも？」

と疑ったら

～治療、管理の最新情報～

講師：小児科 赤松 信子

○視聴可能期間

1月1日(土)～31日(月)

この期間は何回でも視聴になります

○視聴方法

- その1：当センターWebサイトから
- その2：You Tubeのトップページから
「東京医科大学茨城医療センター」で検索
- その3：右のQRコードから



第80回 市民公開講座 オンライン

※今回は新型コロナ感染拡大防止の為、オンライン開催といたします。

「うちの子、
食物アレルギーかも？」
と疑ったら。

～治療、管理の最新情報～

東京医科大学茨城医療センター
小児科 赤松 信子

視聴可能期間 令和4年 1月1日(土)～1月31日(月)

※この期間は何回でも下記の方法でご視聴になれます。

視聴方法 その1：東京医科大学茨城医療センターのWebサイトから
その2：You Tubeのトップページから
「東京医科大学茨城医療センター」で検索
その3：右下のQRコードから

主催：東京医科大学茨城医療センター 共催：東京医科大学
広報委員会 東京医科大学
総務課 茨城医療センター
稲敷郡阿見町中央3-20-1 医師会
TEL: 029-887-1161 (内線 7991, 7992)

